

石室石椁が語る 古墳時代の交流

日時

平成26年 **7月12日(土)**
13:00~14:30

会場

聖徳大学10号館 12階
千葉県松戸市松戸1169
JR常磐線・新京成線「松戸駅」下車、東口徒歩1分

定員

80名(事前申込不要)

後援

松戸市教育委員会、
市川市教育委員会、
柏市教育委員会、
取手市教育委員会

参加費
無料

内容

古代に「太日川」とも呼ばれていた現在の江戸川は、古墳時代には利根川水系に属していました。そして、現在の古墳時代研究の成果から、現江戸川下流域は北武蔵と上総を結ぶ交流の中心であったことが明らかになってきています。

今回の講演では、千葉県市川市法皇塚古墳・同市明戸古墳・松戸市栗山古墳・東京都葛飾区柴又八幡神社古墳などの石室石椁や埴輪から、武蔵と上総、常陸と下総の間に認められる地域間交流の実態を明らかにします。

そして、この事を通じて、下総国西端の市川市域に下総国府が置かれた歴史的背景をも考えていきたいと思います。

講演者

松尾 昌彦

(聖徳大学文学部文学科・教授)

専門分野: 日本考古学

研究内容: 古代東国史の考古学的研究

主な著書: 『江戸川の社会史』

(松戸市立博物館編、同成社刊) 他

1979年 筑波大学第一学群人文学類卒業。

1986年 筑波大学大学院博士課程歴史・人類学研究科単位取得退学。

2001年 博士(文学)。松戸市立博物館学芸員をへて、現在、聖徳大学文学部教授。

お問い合わせ ▶▶▶

聖徳大学言語文化研究所(知財戦略課)

〒271-8555 千葉県松戸市岩瀬 550

電話: 047-365-1111 (大代表)

ホームページ: <http://www.seitoku.ac.jp/chizai/>



市川市法皇塚古墳



市川市明戸古墳

